

1.長期成長ビジョン

- 長期成長ビジョンを策定し、自動車の電動化というメガトレンドに対応する計画を策定
- 自動車用プレス部品の価値を長期的に維持するために、世界で戦える競争力をつける
- 多品種小ロット生産の自動化により、将来にわたって自動車産業に貢献する。プレス部品のビジネスモデル変革を推進し、日本のものづくり力を強める

長期成長ビジョン

「プレス部品の一貫完全自動生産」により世界と戦える競争力を得る
メガトレンドへの対応

- ◆ 設計から納品までの一貫自動化・省力化でQCD競争力を高め、自動車産業のEVシフト、国際競争に貢献する
- ➡ 省力化で採用難に対応し、競争力を高め、自動車製造におけるプレス部品の地位を維持・向上
- ➡ 完全自動化生産ができればコスト競争力が得られ、将来は自動車業界以外への転用も可能（建設、家具などのプレス部品＝ものづくり産業に貢献）
多品種小ロット生産自動化の先駆けとなり、業界のビジネスモデルを変革する

実現の方法

①一貫完全自動生産工場の構築、物流の効率化、自動倉庫の導入

強みである自動化技術を深化させ、プレス加工、溶接、工程間輸送、集荷・出荷を自動化・省力化・無人化する。最終的に一貫通貫の完全自動生産体制を構築する

②金型データのDX化、設計力強化で技術力強化、付加価値向上

過去の約25,000件の金型設計データを活用し、金型製造を自動的に行う仕組みを構築。設計力の高度化をし、樹脂材料にQCDで勝る製品開発を行う

③社員の福祉の充実（経営理念）

社員がいきいきと働けるよう、職場環境、ワークライフバランス、給与制度、教育・研修の拡充を継続的に行う。社員に選ばれる会社になる

会社全体の売上成長目標（2030年まで）

- 売上高成長率 168%
- 売上高増加額 304億円

会社全体の賃上げ目標

- 106%（直近事業年度～基準年度）
- 124%（基準年度～事業化報告3年目）

※コンソーシアムの合計値

外発的動機

社会課題

- EVシフトや世界競争激化でプレス部品の付加価値向上が必要
- **物流の2024年問題（トヨタ自動車が効率化を要望）**
- **EV、ハイブリッド車で電子部品の車体への締結パーツの需要が増大**
- 少子化、高齢化で人材採用が困難
➡ 時代の変化に合わせた“ものづくり”変革は必要不可欠（自動化・省力化・付加価値向上・社員主導）

顧客ニーズ（トヨタ自動車）の変化

- 仕入先活用拡大（ホーム&アウェー戦略）
- 電動化拡大、新技術導入で仕入先にはNo.1ものづくり、世界的な競争力が求められる
➡ 海外企業との競争に勝てないと選ばれない

経営者の内発的動機（原体験）

- **海外競合先（特に新興国）との競争激化**を感じる
このままでは新興国の現地調達化が進み、国内プレス産業衰退
- 異種材料活用（金属から樹脂活用）が進み脅威
- 少子高齢化により年々採用は厳しさを増す
➡ 当社を含め、日本のプレス業界存続に危機感がある

【目指す方向】

ものづくり変革で世界に打ち勝つQCD競争力をつける

- ➡ 省人化、自動化設備の導入
- ➡ 最新技術活用と独自開発技術の組み合わせで競合との差別化
- ➡ 部品屋ではなくシステムサプライヤーの立場に変革

2.補助事業の概要

- 自動車用プレス部品の競争激化で世界と戦える競争力が必要
- 材料投入から出荷までの一貫完全自動生産システムを構築し、省力化、生産性向上を図り、生産能力を拡大
- 自動倉庫システム導入などで物流問題に対応し、金型データDX化により生産準備時間の短縮を図る

補助事業の 背景・目的・ 方法	背景：EVシフトや国内自動車生産数頭打ちでプレス部品の競争激化 目的：世界と戦える競争力を得て競争に勝ち抜き売上を拡大させる 方法：①一貫完全自動生産工場の構築、自動倉庫の導入 ②金型データのDX化、③設計作業の取り込み	事業費 (補助額)	94億円 (23億円)															
設備投資の 内容	<div><div><div>①一貫完全自動生産工場の構築、自動倉庫の導入</div><div><ul style="list-style-type: none">新工場建設（含む造成など）自動倉庫システム入出庫管理ソフトAGV（無人搬送車）、AGV関連建設自動溶接ライン無人化※高速プレスライン無人化※</div></div><div><div>②金型データのDX化</div><div><ul style="list-style-type: none">ビッグデータ、AI化による技術ナレッジと金型自動設計システム金型自動加工ライン※</div></div></div> ※自己資金で導入予定	 																
課題解決	<div>①採用難が進む ➡一貫完全自動生産工場で省力化、労働負荷の低減で未経験者・女性・シニアにやさしい労働環境を確立</div> <div>②生産数増加 ➡一貫完全自動生産工場による省力化、製造リードタイム削減で、人手不足の中でも生産数増加が可能</div> <div>③競争激化➡一貫完全自動生産工場で圧倒的な価格競争力を築く。金型データのDX化で短納期化、設計作業取り込みで付加価値を増す</div> <div>④物流問題による巡回集荷開始➡一貫完全自動生産の自動集荷・出荷機能で顧客の要望に合う荷姿を自動で提供。巡回集荷に対応</div>																	
労働生産性 向上	<div>省力化、生産性向上で、労働生産性が増加</div> <div>①プレス、溶接、表面処理、検査、集荷・出荷の各工程を自動で実施</div> <div>②工程間はAGV、上下搬送機などで自動輸送化</div> <div>③パレタイジング自動化で出荷準備の無人化</div> <div>④新工場（自動倉庫設置）により点在していた完成品置き場を集約し、拠点間物流を整流化（ジグザグ運搬撤廃）</div>																	
目標値	<table><tr><th>項目</th><th>2027年度（基準年度）</th><th>2030年度（基準年度＋3年後）</th></tr><tr><td>労働生産性（単位：万円/人）</td><td>3,668 / 664</td><td>6,529（年平均上昇率＋21.2%） / 1,117（同＋18.9%）</td></tr><tr><td>従業員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）</td><td>599 / 456</td><td>719（年平均上昇率＋6.3%） / 558（同＋7.0%）</td></tr><tr><td>役員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>補助事業に係る従業員数（単位：人）</td><td>98 / 95</td><td>101（年平均上昇率＋1.0%） / 98（同＋1.0%）</td></tr></table>			項目	2027年度（基準年度）	2030年度（基準年度＋3年後）	労働生産性（単位：万円/人）	3,668 / 664	6,529（年平均上昇率＋21.2%） / 1,117（同＋18.9%）	従業員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	599 / 456	719（年平均上昇率＋6.3%） / 558（同＋7.0%）	役員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	－	－	補助事業に係る従業員数（単位：人）	98 / 95	101（年平均上昇率＋1.0%） / 98（同＋1.0%）
項目	2027年度（基準年度）	2030年度（基準年度＋3年後）																
労働生産性（単位：万円/人）	3,668 / 664	6,529（年平均上昇率＋21.2%） / 1,117（同＋18.9%）																
従業員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	599 / 456	719（年平均上昇率＋6.3%） / 558（同＋7.0%）																
役員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	－	－																
補助事業に係る従業員数（単位：人）	98 / 95	101（年平均上昇率＋1.0%） / 98（同＋1.0%）																